

新抗生物質 SF-837 (ミデカマイシン) による化膿性皮膚疾患の治療

高橋 久・田辺 和子

日本専売公社東京病院 皮膚科

村山 礼子

同 検査科

昭和 46 年夏季を中心として、新マクロライド系抗生物質 SF-837 により、各種の化膿性皮膚疾患を治療して、見るべき成果を挙げたので、同時に行なつた病巣分離菌に対する本剤の MIC 測定結果とともに、ここに報告する。

臨床成績

症例としては、前記期間中、当病院外来を訪れた膿皮症患者に対して、本剤を投与し、かつ、その経過観察の充分だつたものを採用した。今回採用した症例は 27 例で、その内訳は、季節の関係で膿痂疹が多く 12 例を占め、次いで coagulase 陰性ブ菌による多発性毛嚢炎の 6 例、各種 2 次感染の 3 例、癰腫症 2 例、その他としては瘰癧および炎症性粉瘤の各 1 例であつた。各症例は原則としてそれぞれの起炎菌に対する本剤の MIC を測定した。

症例の年齢は 4 才から 48 才におよぶが、膿痂疹患者は当然ながら小児に限られ、多発性毛嚢炎は青年期患者に多かつた。

投与量は成人で 1 日 6 cap.、小児で 1 日 3 cap. を原則とした。

投与期間は 3 日から 17 日までさまざまであつた。効果が確認できるまで投与したので、無効例は一般に投与期間が長くなつたが、1 例、癰腫症の患者では、次々発症して来るために 3 日で打ち切り、他剤と切り替えた。それに対して、著効例は効果の発現が速やかであつたため、すべて投与期間が短かつた。

表 1

	総数	著	有	無
膿 痂 疹	12	0	12	0
癰	2	0	2	0
2 次 感 染 リンパ腺炎	3	3	0	0
癰 腫 症、毛 嚢 炎	8	1	1	6
そ の 他	2	0	2	0
計	27	4	17	6

効果の判定は主として主観的な印象によつた。すなわち、短期間に顕著な症状改善をみたものを著効、それほど急速ではないが、着実に症状改善を示したものを有効、症状改善せず、または新発疹の生じたものを無効とした。

臨床成績は第 1 表に、その症例別明細は第 2 表にまとめて記載した。

これらの表について、註解を加えると、皮膚化膿症の最も原則的な疾患としては癰があり、これに対する抗生剤の治効が薬剤効果判定では基準としての性格を有するようと思われる。それに対して、多発性毛嚢炎は coagulase 陰性ブ菌によるものが多く、感染症としての性格の他に毛孔閉鎖、皮脂分泌等の他の要因が加わっているために、ややもすれば無効の結果となりやすい。

今回の治験では癰は 2 例中 2 例ともにそれぞれ 5~6 日間投与で有効であつた。それに対して多発性毛嚢炎では無効症例がめだつた。また、癰腫症は細菌の要因の他に、個体の感染に対する抵抗もなんらか関与していると思われ、やはり抗生物質の効果の充分な発現はむづかしく、今回の治験においても 2 例とも無効に終つた。

小児の膿痂疹はそれに対して、薬剤の効果制定にとつて極めて便利な症例であつて、抗生物質の投与により 3, 4 日のうちに病巣面の乾燥をきたしたら著効と考えてよい。有効例ではその程度の期間では充分なビラン面の乾燥は達せられない。今回の治験では 12 例中 12 例ともに有効で、着実な効果がみとめられた。このことから本剤はそうとう有効な薬剤であることがみとめられた。

今回の治験でめだつたのは 2 次感染に対して本剤が 3 例ともに著効を呈したことで、リンパ腺炎の発熱は投与により急速に低下をみたことである。

本剤の投与によりとくに副作用はみとめられなかつた。

起炎菌に対する MIC と本剤の臨床効果との関係は必ずしも併行せず、多発性毛嚢炎ではことにそれが乱れているのは、本疾患が単なる感染症でないことを裏付けている。癰の場合にも耐性菌でも有効なのは発疹部位の深淺や排膿の時期の遅速に関係しているものであろう。

表 2

No.	患者	性	年	診 断	Coagl.	MIC (pH 7.4)	使用量	効果	摘 要
1		♂	6	膿 痂 疹	+	1.56	3 cap × 7日	有 効	他マクロライド 耐性菌
2		♀	5	〃	+	1.56	4 cap × 5日	有 効	
3		♂	6	〃	+	1.56	3 cap × 5日	有 効	
4		♂	7	〃	+	1.56	3 cap × 7日	有 効	
5		♀	6	〃	+	1.56	3 cap × 5日	有 効	
6		♂	10	〃	+		4 cap × 5日	有 効	
7		♂	7	〃	+	1.56	3 cap × 3日	有 効	
8		♂	9	〃	+	1.56	3 cap × 3日	有 効	
9		♀	5	〃	+	3.13	3 cap × 14日	有 効	
10		♂	7	〃	+	1.56	3 cap × 7日	有 効	
11		♀	5	〃	+	1.56	3 cap × 6日	有 効	
12		♀	4	〃	+	1.56	2 cap × 3日	有 効	
13		♂	34	瘤	+	>100	6 cap × 5日	有 効	
14		♀	48	〃	+	1.56	6 cap × 6日	有 効	
15		♂	27	2次感 外傷、リンパ腺炎	+		6 cap × 4日	著 効	
16		♂	5	2次感、リンパ腺炎	+	1.56	3 cap × 3日	著 効	
17		♂	12	イボの 2次感染			3 cap × 5日	著 効	
18		♀	45	瘰 疽	+	15.6	6 cap × 5日	有 効	
19		♂	29	炎症 粉 瘤			6 cap × 5日	有 効	
20		♀	35	瘤 腫 症	+	1.56	4 cap × 3日	無 効	
21		♀	34	〃	-	3.13	6 cap × 10日	無 効	
22		♂	21	多発性毛囊炎	-	1.56	6 cap × 6日	無 効	
23		♂	48	〃	-			著 効	
24		♀	22	〃	-	>100	3 cap × 10日	無 効	
25		♀	21	〃	-	1.56	6 cap × 17日	無 効	
26		♀	21	〃	-	1.56	3 cap × 10日	無 効	
27		♀	21	〃	-	>100	6 cap × 14日	有 効	

病巣分離ブ菌に対する本剤の MIC

比較的新しく分離した病巣由来ブ菌 52 株 (うち coagulase 陽性 40 株, coagulase 陰性 12 株), 209 P 株 2 株 (2 株はそれぞれ別の施設から供与) に対する本剤の MIC を化療標準法で測定した結果は, 図 1 のとおりで, そのピークは 1.56 mcg/ml であった。これは培地の pH を 7.4 として測定を行なったが, 同じく, 接種菌液を 100 倍に希釈して行なうと, そのうちの一部の菌の MIC は 0.78 および 0.39 mcg/ml に低下した。

209 P 株は 1.56 mcg/ml の MIC であった。

100 mcg/ml 以上の株が, coagulase 陽性, 陰性株とも, それぞれ 3 株ずつ認められた。

結 語

新マクロライド系抗生物質 SF-837 を 27 例の皮膚化

膿症患者に投与した結果, 著効 4, 有効 17, 無効 6 例の結果となつた。なかでも膿痂疹患者に対しては 12 例す

図 1 ブ菌 MIC 分布 (pH7.4) 化療標準法

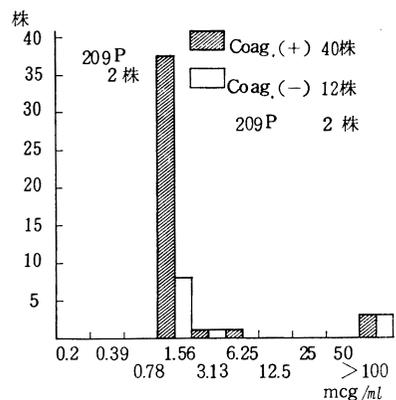
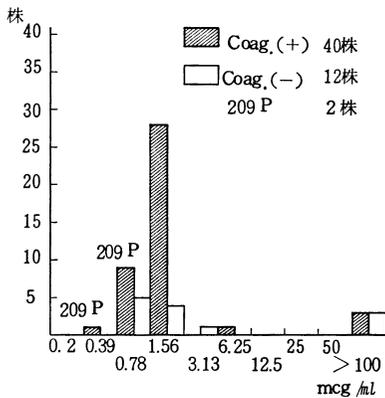


図2 ブ菌 MIC 分布 (pH 7.4) 100 倍希釈菌液 接種



べてに有効であり, 2次感染症例には3例すべてに著効であつた。多発性毛嚢炎では無効例が多かつたが, これは疾患の性格上やむを得ない面もあつた。

病巣分離ブ菌に対する本剤の MIC は 1.56 mcg/ml のものが多数を占めた。

以上から, 本剤は, その副作用の少ない事実とともに, 化膿性皮膚疾患に対してはさうとう期待を持てる薬剤であろうと考える。

THE TREATMENT OF SUPPURATIVE DERMAL INFECTION WITH SF-837 (MYDECAMYCIN), A NEW ANTIBIOTIC

HISASHI TAKAHASHI and KAZUKO TANABE

Clinic of Dermatology, Tokyo Hospital of the Japan Monopoly Corporation

REIKO MURAYAMA

Central Laboratory, Tokyo Hospital of the Japan Monopoly Corporation

Abstract

SF-837, a new macrolide antibiotic, was administered orally at the dose of 600~1,200 mg per day to 27 cases of suppurative dermal infection. The results were obtained as follows: remarkably effective in 4 cases, effective in 17 cases, and ineffective in 6 cases.

The antibiotic was effective in all 12 cases of impetigo, while it was mostly ineffective in multiple folliculitis.

The MIC of SF-837 was measured on 52 strains of *Staphylococcus* isolated from lesion and 2 strains of 209P strain and it centered mostly to 1.56 mcg/ml, whereas 6 strains demonstrated >100 mcg/ml.